

# 風間浦中学校との交流24年目 生徒会による訪問と交流会が新聞で紹介されました

東奥日報 2017年1月22日付 朝刊に掲載

## 新島襄が結んだ絆 今も 同志社中生が村訪問、交流



昼食会で交流を深めた同志社中生と風間浦中生たち

### 風間浦

同志社創立者・新島襄が風間浦村下風呂に寄港した縁で、交流を続けている同志社中の3年生8人が19、22日の日程で、同村を訪れている。20日は、風間浦中学校を訪問。村の児童生徒

が村や学校の取り組みを発表する「小中合同ミニサミット」や昼食会が開かれ、交流を楽しんだ。

村を訪問しているのは同志社中の生徒会のメンバー。ミニサミットには風間浦中全校生徒43人と風間浦小5、6年生25人が参加し

た。

中学生は村の歴史や、保育実習や社会福祉施設でのボランティアなど地域活動に取り組んでいることなどを紹介した。小学生は、新島襄の妻八重の出身地・福島県会津若松市に修学旅行に出掛け、戊辰戦争で敗れた会津藩が下北の地で斗南藩として再興した歴史があることなど学んだ成果を発表した。

昼食会では同志社中と風間浦中の生徒が、村名物のフノリの汁をすすり、会話を楽しんだ。風間浦中2年の宮下葵さんは「同志社中の子は、みんなめっちゃ明るくて楽しい」と笑顔。フノリ汁をお代わりした同志社中3年の徳永直之さんは「今まで食べたことがない食感でおいしかった。サミットの発表は、地元愛が伝わってきた」と感想を話した。

(加藤彩美)

### ～同志社中学校と風間浦中学校の交流～

本州最北端の青森県風間浦村と同志社との交流のきっかけは、150年前以上の1864年までさかのぼります。当時鎖国していた日本において、欧米に学ぶ必要性を感じた校祖新島は国禁を犯して函館からアメリカに渡航しました。その函館に向かう航海中に、激しい逆風と潮流に妨げられ青森県「風間浦村」の下風呂港に寄港し、数日間滞在了ました。校祖新島は父民治に送った手紙で、下風呂温泉に入り「重き荷物を卸し候」とその時の思い出を綴っています。

同志社校友会青森支部の方々と風間浦村の方々の熱い思いによって、1992年、下風呂温泉郷の観光拠点となっている「海峡いさりび公園」に、「新島襄寄港記念碑」が建立されたことを機に、風間浦村と同志社の交流事業がスタートしました。毎年行われる碑前祭、村内小中学校への同志社大学留学生の派遣、そして同志社中学校と風間浦中学校との交流です。これまで約25年間、風間浦中学校2年生の皆さんは、同志社体験プログラムで毎年秋の学園祭時に、本校と同志社大学を訪問。本校からも以前は5年に一度、生徒会代表が風間浦村・風間浦中学校を訪問していましたが、交流20周年を機に、毎年訪問し交流をますます深めています。